

【甲府地方法務局長賞】

僕を形成するもの

北杜市立長坂中学校

三年 ^{たかはし}高橋 ^{たくみ}巧

「僕は何でできているのだろう。」ある日、お菓子の箱の裏に記載された成分表示を眺めながら、ふと考えたことがあります。

多く含まれる成分から表示する方法で並べてみると、「身体を組成する筋力や骨、臓器や血液」、次いで「意思・思考・自我」が僕である上で欠かせないものです。しかし、それだけでは「僕」は未完成だと思えました。

では、何を加えたら「僕」になるのだろうかと考えたときに思い浮かんだのは友達顔、幼稚園や学校の先生顔、家族顔でした。

僕は、短期記憶の分野において人とは少し違う発達過程にあるそうです。僕自身は長く僕として生活してきたので、よくわからないというのが正直な感想です。人とは比べようがないので、自分なりに工夫しながら具体的な対策を模索している最中です。

小学三年生の頃、クラスで定期的に行われる漢字テストがありました。当時は漢字を覚えることが本当に苦手で、合格になかなか手が届かずにいました。合格するまでは放課後に補習と追試があり、友達と遊ぶ時間が減ってしまうのです。早く合格してテストから解放されたいと、右手のノートに触れる面が真っ黒になるまで書き取りの練習をしても、結果に結び付けることが出来ずに悔しい日々が続きました。

追試を受ける人数がだいぶ少なくなってきた頃、クラスの友達による「巧を漢字テストに合格させる会」が結成されました。みんな貴重な昼休みを返上して、テストに出る漢字が覚えられるようにと書き取りに付き合ってくれたり、ミニテストと称してテストに出る漢字をクイズ形式で出題してくれたり、具体的に協力してくれたのです。担任の先生と家族も復習にずっと寄り添ってくれて「すごく頑張っているから絶対大丈夫、この努力は絶対無駄にならないか

ら」と努力する姿を見守ってくれていました。みんなと早く遊びたいという気持ちはもちろん、応援してくれるみんなの気持ちに応えたい、と自宅での学習にもより一層身が入ったように思います。その努力が実り、とうとうテストに合格し、その後のミニテストにも合格できるようになっていきました。僕自身もとても嬉しかったのですが、協力してくれた友達や先生、家族が自分のことのように喜んでくれたことは今でも忘れません。

友達や家族のくれる「大丈夫」はとても効力があります。自分一人だけでは抱えきれず投げ出したくなりそうな時に、誰かが背中を押して支えてくれることで克服する力を得ることができます。克服した事実が自信へと繋がり、自信が次の困難を克服する力となり、いつしか誰かを支える力に成りうるのだと、僕自身の体験を通じて感じることができました。

そう思うことができたのは、困っている僕を助けて、そして早く一緒に遊べるようにしようという友達の純粋な気持ちが大きく影響してると思います。誰も漢字が苦手な僕を馬鹿にしたりからかったりせず、「次は大丈夫」「ドンマイドンマイ」と声をかけて応援してくれました。上下の関係がなく、友達が僕をかわいそうだと思わずにしてくれた事で、僕は卑屈になることもなく、まっすぐに友達の厚意を受け止めることができたのだと思います。

これから先の経験で、目に見えない「常識」に捉われて、互いの違いを優劣に置き換えてしまったり、利害感情が視点を歪めてしまう事もあるかもしれません。正しくありたいという気持ちが無意識のうちに、他を受け入れる余裕を狭めてしまう事もあるかもしれません。金子みすずさんの「みんなちがってみんないい」という詩が素晴らしいという事は誰もが知っていても、共感し自ら実践していくということとは全然違うのだと思います。

完全な人は存在しないと思います。それぞれに得手不得手もあるはずです。病気・障害の有無はその人の状況を表すものであって、その人自身ではありません。それぞれが違いを認めながら、自分の得意な状況では少し積極的になって前に出て、不得意な状況では誰かに少し力を借りて乗り越える、互いに理解して補い合うことで誰もが暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。

結局、「僕を形成するもの」は僕一人の肉体や自我だけでは完結されず、周囲の理解と支援によって外側からも形成されているのだと思います。

世界中を変える事は難しいですが、僕自身の経験を支えに、丁寧に人と関係を築きながら、身近な家族や友人の支えに感謝しつつ、時には誰かを支えられ

るよう、そしてその範囲が少しでも広げられるよう意識しながら成長していきたいと思います。